



これから社会に出る君たちへ

株式会社 Carat 姉妹店「南風」店長
松原 安矢華 (施設出身当事者)

私は、中学校1年生から高校3年生まで施設でお世話になりました。

小学校2年生の時に母さんが亡くなり直ぐにおばあちゃん（義理のお父さんのお母さん）家で暮らすことになりました。今のお父さんが、本当のお父さんじゃない事をこの時に知らされました。私には六つ年上の兄と一つ年下の妹がいます。兄はお父さんの子で、私と妹は亡くなったお母さんの子なので、おばあちゃんにとっては私と妹は本当の孫じゃないので、当たりが強くて…

家のお手伝いをするようになり、お手伝いだったのがいつの間にか強制になり、やってないと怒られ叩かれるようになりました。小学校3年生で台所に立ち味噌汁を作る係で、家中の掃除は私と妹が全てやらないといけなかったです。ある日の朝学校に行く前に、家の掃除をしてから登校しなさいと言われて…家に居る事が窮屈になり家出をしました。

家に帰りたくないと言ったら中学1年生の時に施設（ならわ学園）に入る事になりました。1年半お世話になり、中学3年生から高校3年生まで大和荘でお世話になりました。

高校1年の時に学校に行くふりをして、友達と遊び呆けていた事もあり、荒れていた事もありました。施設の先生にそんな事してたら卒業出来ないし、ここに居れなくなると言われ高校2年生から気持ちを入れ替えたのを覚えています。

今では施設の先生は本当に恩師だと思います。

高校3年生で就職の話になり、やりたい事も無いと言ったら…卒業後理美容で働いてみないかと言われて就職する事になりました。

私には理美容が合わないから他の仕事を…と言っていた先生もいましたが、とりあえず頑張ると伝えました。

いざ働いてみると凄く大変で、辞めたいと思った事が何度もありました。

しかし色々仕事が出来るとなると楽しくて、後輩が出来るとお手本にならないと思う様になりました。

気が付くと毎朝、就業前に理美容の技術練習をする様になり、今でも習慣になっています。

出来ない事を毎日やり続けていればいつか出来る様になるし、誰かがその過程を見ていてくれていると思います。

そんな事もあり、私は支店の店長になりました。

失敗してもいいと思います。何でも嫌がらず、視点を変えて楽しむ気持ちが大切なかもしれません。

何事にも挑戦して行って下さい。